
高田高校校友会東京支部総会
〈高田高校祭〉に出席して

浅石 まみ (高37回)



卒業して社会人となり、お局様も通り越して、家、会社、時々小学校という、典型的な子持ちOLな日々を送っております。

ある年、会社の先輩、中川さんが、高30回卒だと紹介を受け、その時に、『毎年6月第3週の金曜日』に同窓会が開かれてるということで初参加してみました。高30回の皆様の暖かい歓迎を受け、若い人扱いを受けたことにも新鮮な気持ちを持った一日でした。大人の世界をのぞいたような気持ちになりつつも、自分の同期に会うことはできず、再会の喜びがなかったので、少し期待が外れた気分でもありました。

でも、その時に、諸先輩方との接点を持つことができたことで、東京にいながら、ふるさとの情報が入るようになりました。

そして、今年、東京支部のお計らいで若手支部会員の増強について高37回生との懇談会を催していただきました。昨年、品川久美子さんをはじめとして、卒業後初の同期会を夏に「やすね」で催したばかりと、高高校友会便りにあり、その繋がり、東京支部総会に先駆けて、5月23日、8人もの同期に再会させていただくことができました。

学生時代には、ほとんど会話をしたことのなかった同期とも、どうしてこんなに話が弾むのでしょうか？ もちろん、北陸線乗り換えで直江津での長い待ち合わせ時間を共有した友人とは、20年以上も会っていなかったとは思えないほど、すんなりリズムが

合い、会話さえ必要ないほどに和んでしまっています。すっかりおばちゃんになって、誰とでも会話できるのは当たり前だと思ってたけど、確かに女子高生だった頃には、この男性陣との会話もためらっていたなあ、こんなにできるようになったんだ、等と、かわいらしくも自分を見直すことができた。

その後の総会には、更に多くの同期が参加してくれたので、前回までは、ちょっと背伸びをした同窓会出席だったものが、今年は、郷土の料理も味わいつつ、懐かしい友にも会え、来年の再会も誓い、大いに盛り上がった一日となりました。

同窓会って、懐かしく、昔を思い出すものだけなのでは？と書いていたのですが、出席して、深く考えを改めました。素敵な諸先輩にお会いできること、昔の友人に再会できることもそうですが、体験して初めて分かった最大の楽しみは、「高田高校校歌」を大きな声で歌えること！忘れてしまうことなく、自然に歌える自分に驚きつつも、皆で歌うこの一体感は、何物にも変えられない快感そのものです。大きな声で歌えるのは、年に一回。一度体験した誰もが次も参加したくなること間違いなし(笑)。

校友会がなければ、絶対に会うことのできなかった友人に引き合わせていただき、人の縁は、本当に皆様のおかげと実感いたしました。また、この喜びを分かち合うために、出席したいと思います。